

平成 30 年度  
七尾城跡保存活用推進室年報



平成 31 年 3 月  
七尾市教育委員会 スポーツ・文化課  
七尾城跡保存活用推進室

## —七尾の由来—

七尾と云は、此山に鶴尾・亀尾・松尾・竹尾・烏帽子尾・袴尾・牛尾とて七の尾崎あり、依之、七尾と云、

享保 16 年（1731）に成立した『気多本宮縁起』によると、「七尾」の名はこの七つの尾根に由来するとされる。

戦国時代、能登国を治めた畠山氏が、この七つの尾根筋に、国内有数の規模と構造を具えた巨大山城「七尾城」を築き、今もその面影が偲ばれる。

# 本書を読んでいただくにあたって

本書は、平成30年度に七尾市教育委員会スポーツ・文化課内に新設された「七尾城跡保存活用推進室」(以下、推進室)が、平成30年3月に策定した「史跡七尾城跡保存活用計画」にもとづき取り組んだ、平成30年度の活動をまとめたものである。

本書の編集にあたっては、推進室が取り組んだ年間活動の総括を目的とし、室員の研究活動の成果報告や新聞記事・アンケート等の関係資料も添付した。なお、本書の執筆・編集は、善端直の指導の下、萩山教俊、麦居和真が行った。

本書を通して、推進室の取り組みについてご理解いただき、今後の七尾城の保存・活用の取り組みに対してもご協力いただければ幸いである。

## 目次

### 本書を読むにあたって

七尾城の概要	1
I. 活動記録	7
II. 今年度の主な取り組み	11
(1) 調査・研究活動	11
(2) 日常的な維持管理	14
(3) 情報発信・普及啓発活動	21
(4) 本丸景観の復元	22
(5) 九尺石災害復旧工事	23
(6) 追加指定	24
(7) 史跡七尾城跡整備基本計画策定委員会	26
III. 研究・活動報告	27
(1) 七尾城に携わった1年(萩山教俊)	27
(2) 七尾城古絵図の筆写関係について(麦居和真)	29
付編	38
(1) 平成30年度七尾城跡来城者アンケート結果	39
(2) 七尾城跡に関する新聞報道	50



現地調査の様子(七尾城内)



遊歩道の損傷箇所確認の様子

## 七尾城の概要

七尾城は戦国時代に能登畠山氏が領国支配の拠点として、現在の石川県七尾市古城町・古屋敷町・竹町一帯の石動山系の尾根筋に築いた山城である。標高 300 メートルの本丸を中心として、掌を広げたように派生する尾根筋一帯に多数の曲輪を連ねている。主な遺構は外堀に見立てた東側の木落川から西側の大谷川に挟まれた範囲に所在し、麓の城下を含めた範囲は、東西約 0.8 キロメートル、南北約 2.5 キロメートルの範囲にある。特に、中心部となる本丸跡周辺の曲輪は、石垣で固められている。

七尾城を築いた能登畠山氏は、室町幕府管領畠山氏の有力庶流で、能登守護であるとともに室町幕府の最高権力者グループである御相伴衆に列する幕閣の重臣であった。しかし、守護は在京を原則とすることから、畠山氏が領国能登に在国して政務を執るようになるのは応仁・文明の乱（1467～1477）以降である。

文明 10 年（1478）に下向して、能登国支配をはじめた畠山氏は、はじめ港付近の能登府中の守護所に拠点を構えたが、大永 5 年（1525）までに新たな拠点として七尾城を築いた。天文 13 年（1544）に禅僧の彭叔守仙が記した『独楽亭記』

からは、「天宮」と称する大規模な城郭と、それに連動する「千門万戸」と称する活気あふれる城下町の様子が窺える。

七尾城は、天正 5 年（1577）に能登畠山氏が滅亡すると上杉氏が、次いで前田氏が一時拠点とするも、同 17 年までには前田氏が小丸山に拠点を移し廃城となったとみられている。江戸時代には加賀藩が城跡を鎌留御林として管理していたこともあり、山城と城下の遺構が良好な状態で残されてきた。そして、昭和 9 年（1934）には国史跡に指定され、現在まで保存と活用の取り組みが行われてきている。



本丸全景（東から）

**七尾城跡保存活用推進室（以下、推進室）は、戦国時代から現在まで守られてきた七尾城と城下の本質的価値を「守り・学び・楽しみながら次世代に確実に伝え、現代社会に活かす」ための方針や方法を示した「史跡七尾城跡保存活用計画」に則り、今後の七尾城の保存・活用・整備の実施運営をマネジメントする担当部門です。以下、本書では推進室の日頃の活動を紹介します。**

年号	(西暦)	主な出来事	領主	拠点
暦応元年	(1338)	足利尊氏が征夷大将軍となり、室町幕府が成立する。	畠山	(守護代) 中
明德2年	(1391)	畠山基国、河内・越中とともに、能登守護となる。		
応永13年	(1406)	畠山基国が没し、次男満慶が家督を継ぐ。		
15年	(1408)	畠山満慶、畠山家の家督を兄の満家に譲り、満家から能登守護を与えられる。能登畠山家(畠山匠作家)を創設する。	能登畠山	府中守護館
永享4年	(1432)	畠山満慶没し、長男義忠が家督を継ぐ。		
享徳4年	(1455)	この頃、畠山義統が守護となる。祖父の義忠が隠居する。		
応仁元年	(1467)	畠山義統、西軍方で応仁の乱に参戦する。		
文明10年	(1478)	応仁の乱が終わり、この頃、畠山義統、能登に下向する。		
15年	(1483)	畠山義統、府中守護館で連歌会を催し、「賦何船連歌」が詠まれる。		
延徳2年	(1490)	畠山義元、能登に下向する。		
明応6年	(1497)	畠山義統没し、長男義元が家督を継ぐ。		
9年	(1500)	守護代の遊佐統秀ら、義統の次男慶致を守護に擁立する。義元は越後へ逃れる。		
文亀3年	(1503)	畠山慶致、父義統の七回忌法要を瑞応山大寧寺で行う。		
永正5年	(1508)	畠山義元、越後から戻り、再び能登守護となる。		
12年	(1515)	畠山義元没し、慶致の長男義総、能登守護となる。		
大永3年	(1523)	七尾の招月庵で「賦何路連歌」が詠まれる。	七尾城(山城と城下)	
5年	(1525)	七尾城内の義統邸で「賦何人連歌」が詠まれる。		
6年	(1526)	畠山義総、七尾城内で歌会を催し、冷泉為広・為和父子、列席するが、同年冷泉為広 七尾で没する。		
天文8年	(1539)	絵師の長谷川等伯(信春)、七尾に生まれる。		
13年	(1544)	禅僧の彭叔守仙が「独楽亭記」に七尾城と城下のようなすを記す。		
14年	(1545)	畠山義総没し、次男義統が家督を継ぐ。		
6年	(1547)	畠山駿河(義総の弟)ら、能登に侵入し、重臣の温井総貞らによって鎮圧される		
19年	(1550)	この頃、能登の内乱(遊佐統光と温井総貞の対立)によって七尾城下が焼失する。		
20年	(1551)	この頃、重臣七名からなる「畠山七人衆」が領国支配の実権を握る。		
弘治元年	(1555)	この頃、畠山義統の長男義綱が守護となる。隠居した義統は恵祐と号し、義綱の後見人となる。 畠山義統・義綱父子らが、温井紹春を謀殺し、大名権力の回復をはかる。 温井一党が一向一揆などの支援を得て、七尾城方と対峙する。(弘治の内乱)		
永禄9年	(1566)	重臣らが畠山義綱を追放し、長男義慶を守護に擁立する。		上杉
永禄11年	(1568)	畠山義綱、七尾城に攻め込み、包囲する。		
天正2年	(1574)	畠山義慶、重臣に毒殺され、弟義隆が家督を継ぐ。		
天正4年	(1576)	越後の上杉謙信、能登へ攻め入り、七尾城を囲む。		
天正5年	(1577)	遊佐・三宅・温井氏らが上杉方に内応し、開城に反対する長氏一族を謀殺する。七尾城が落城し、能登畠山氏が滅亡する。 上杉方の鯉坂長実が七尾城代となる。		
天正6年	(1578)	上杉謙信、急死する。	景勝	
天正7年	(1579)	温井景隆ら鯉坂長実を追放し、七尾城を奪い返す。		
天正9年	(1581)	織田信長、菅屋長頼を七尾城代とし、温井景隆・三宅長盛が石動山へ退き、その後越後へ行く。	織田	小丸山城(平山城と城下)
天正10年	(1582)	前田利家、織田信長より能登一国を与えられる。 織田信長、菅屋長頼に能登・越中の城割りを命じ、安土へ戻らせる。	前田	
		本能寺の変で織田信長が自害する。(49歳) 温井景隆・三宅長盛ら、越後勢とともに石動山に入るが、前田利家・佐久間盛政らによって滅ぼされる。 利家、石動山を焼き討ちする。(石動山・荒山の合戦) この頃から、前田利家が所口の丸丸山に築城を開始する。		
天正11年	(1583)	前田利家、豊臣秀吉より、石川、河北二郡を与えられ金沢(尾山)へ移る。 前田安勝(利家の兄)が、七尾城代となる。	城代 安勝	
天正12年	(1584)	前田利家、加越国境などで越中の佐々成政と戦う。 佐々成政勢が末森城を包囲する。	利家	
天正13年	(1585)	佐々成政、羽柴秀吉に降伏する。		
天正17年	(1589)	愛宕山の気多本宮や小島・所口の百姓屋敷を明神野に移す。		
文禄2年	(1593)	前田利家の次男利政、豊臣秀吉より能登一国を与えられる。		
文禄3年	(1594)	前田安勝没する。長男利好が七尾城代となる。		
文禄4年	(1595)	所口の惣構え堀の開削を進める。	利政	
慶長4年	(1599)	前田利家、大坂で没する。(63歳)	城代 利好	
慶長5年	(1600)	関ヶ原の戦い。 前田利政が改易され、利政領は加賀藩領となる。	利長	
慶長8年	(1603)	徳川家康、江戸幕府を開く。	城代 知好	
慶長15年	(1610)	前田利好没する。利家三男知好が七尾城代となる。 長谷川等伯、江戸で没する。(72歳)		
元和元年	(1615)	「一国一城令」が出される。		
元和2年	(1616)	七尾城代前田知好(利家三男)、京へ上り七尾(小丸山)城廃城。		

表 能登畠山氏・七尾城跡略年表

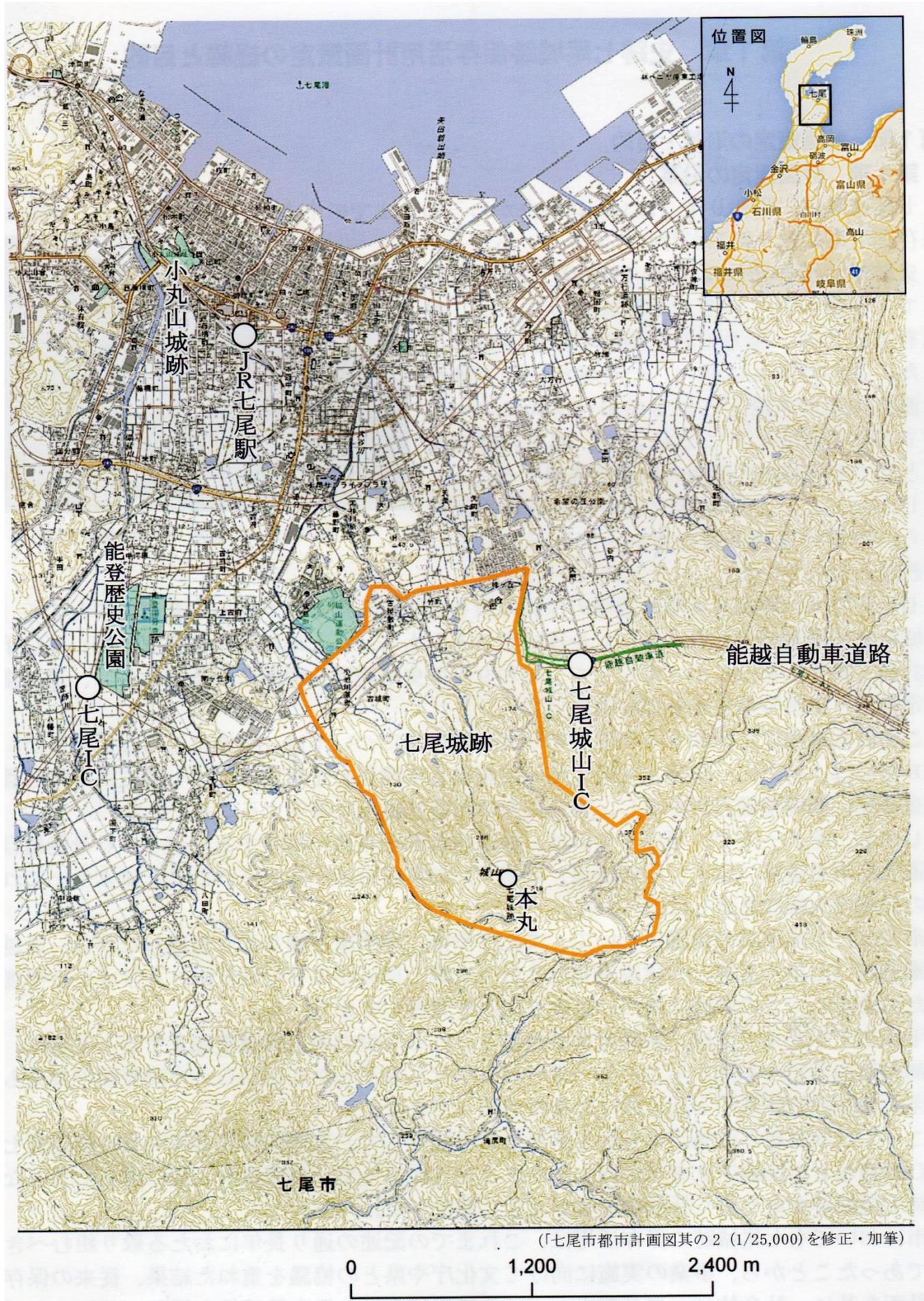


図1 七尾城跡位置図

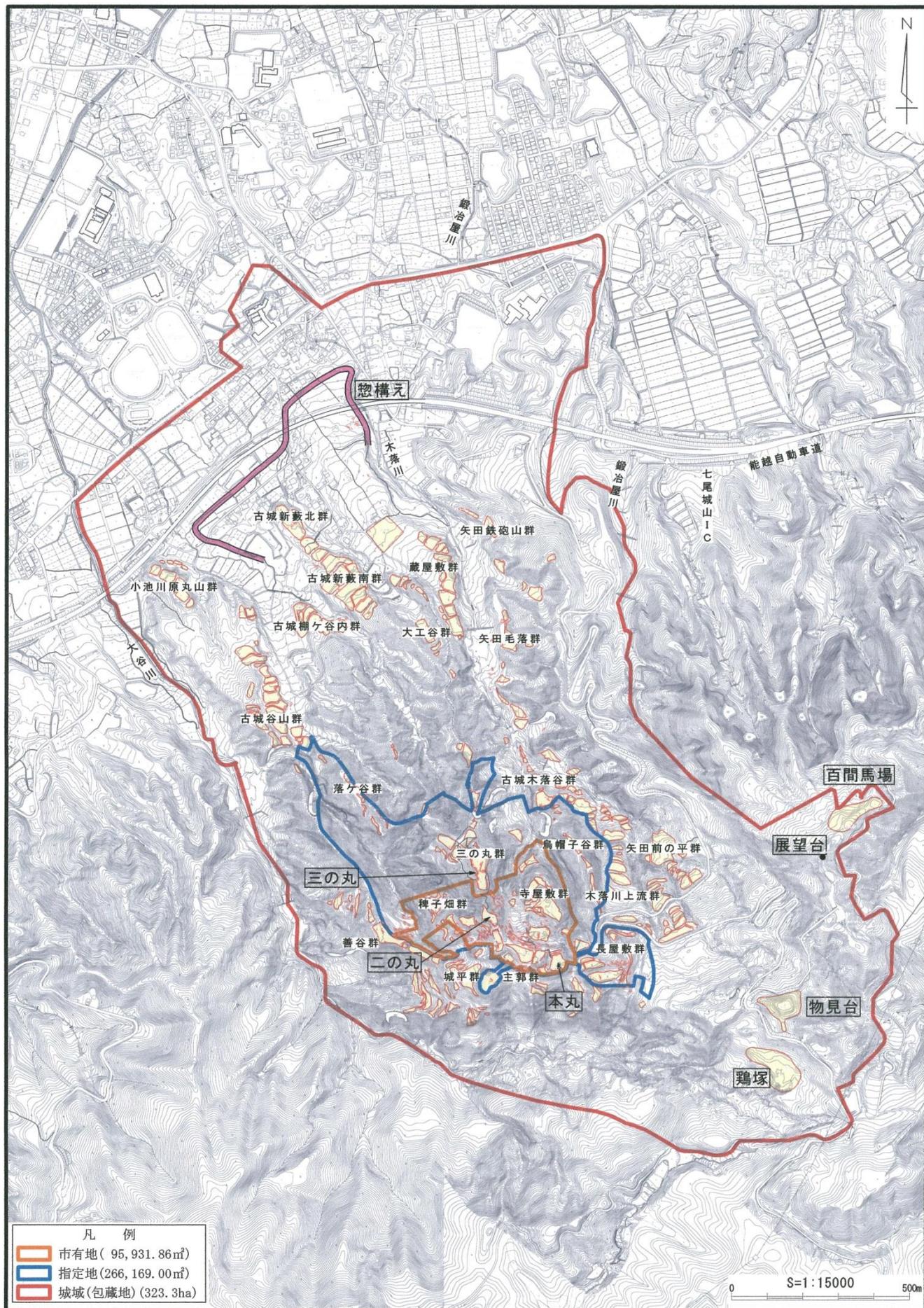


図2 七尾城跡主要遺構配置図

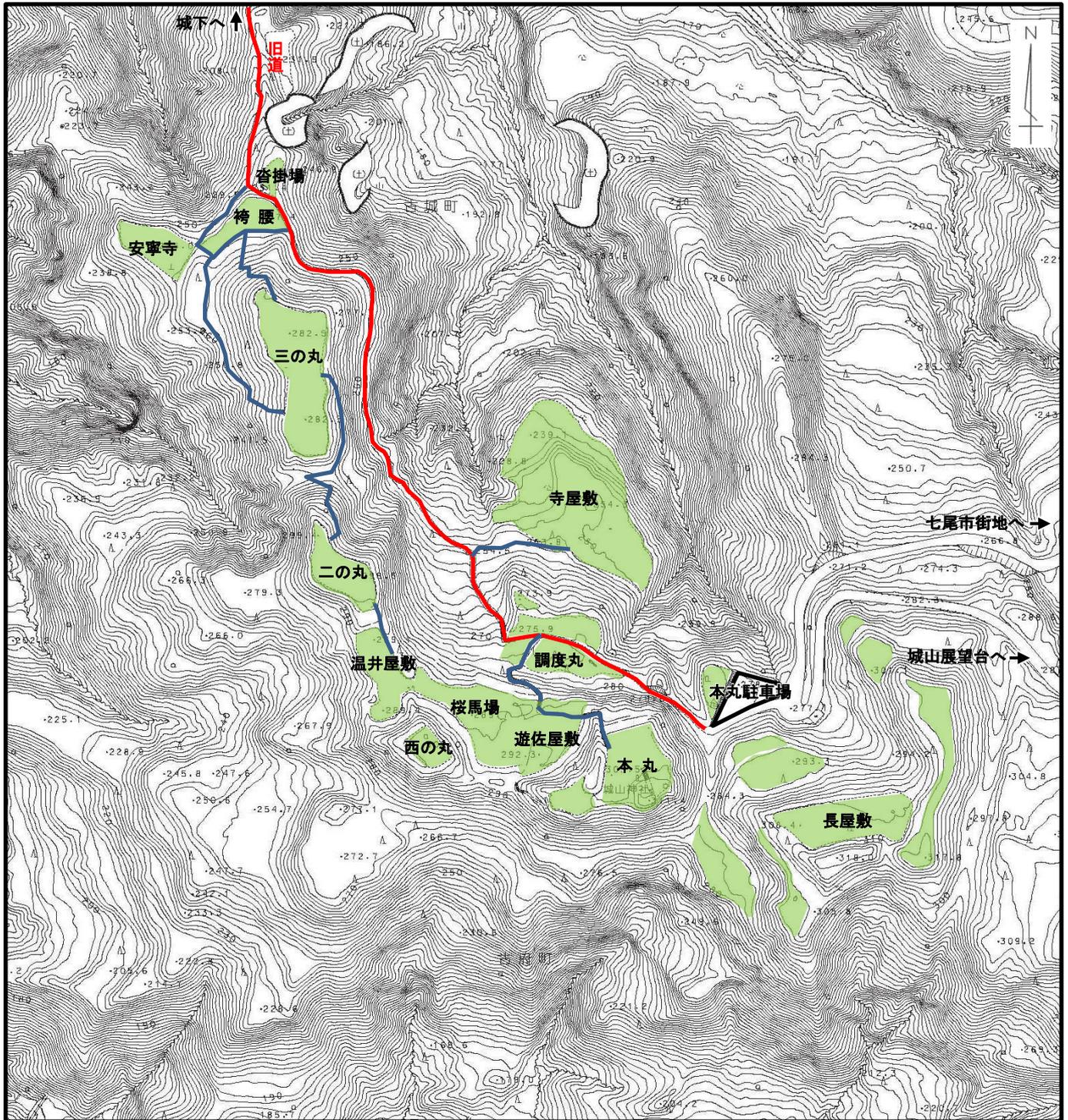


図3 七尾城跡中心部 ( — は旧道、— は遊歩道)



調度丸から桜馬場北側石垣を望む

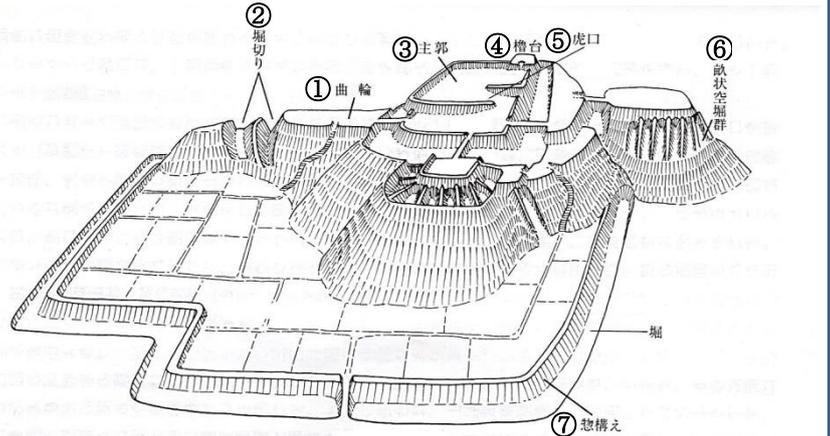
①<sup>くるわ</sup>曲輪・・・土地を削平や盛土をして平坦化した区画。七尾城跡では本丸、二の丸、三の丸などの平坦な区画が曲輪にあたる。

②<sup>ほりき</sup>堀切り・・・丘陵や山地の尾根筋を遮断し、尾根伝いからの敵の侵入を阻むように設けられた堀。七尾城跡では主郭群と長屋敷群を分かち関東堀などが堀切にあたる。

③<sup>しゅかく</sup>主郭・・・城の最中心部。最後に立てこもる場所になり、七尾城跡では本丸に相当する。

④<sup>やぐらだい</sup>櫓台・・・遠くまで見渡すことができる見張台。七尾城跡では城山神社が鎮座するところに櫓台状の高まりがある。

⑤<sup>こぐち</sup>虎口・・・城館の防御された出入り口で、門のあるところ。七尾城跡では本丸西側に外枳形虎口がある。また、温井屋敷南西部に残る九尺石は、格式高い出入口（内枳形虎口）に用いられたとみられる。



城郭調査ハンドブック 千田・小島・前川 1993 を加筆し転載

⑥<sup>うねじょうからほりぐん</sup>畷状空堀群・・・斜面に沿って掘られた堀（堅堀）が連続しているもののこと。七尾城跡では稀な遺構で、物見台と呼ばれる城跡東部の曲輪の東側斜面に見える。

⑦<sup>そうがま</sup>惣構え・・・城下域に設けられた長大な堀や土塁などの防御施設そのもの、あるいはそれに囲まれた空間のこと。七尾城跡では古屋敷町と古城町の境目に惣構えの痕跡が残る。

図4 中世山城の基本モデル



七尾城 CG（七尾城全景、北から）

# I. 活動記録

(平成 30 年度)

## 【4月】

- 4日(水) 損傷箇所修繕
- 11日(水) 室会議(第1回)
- 17日(火) 室会議(第2回)
- 19日(木) チップ道整備(七尾高校2年生)
- 22日(日) 七尾城山山開き(安全祈願祭)



七尾高校によるボランティア活動



説明看板の設置(大手道)



慶應義塾横浜初等部の七尾城登山

## 【5月】

- 1日(火) 室会議(第3回)
- 11日(金) 遊歩道整備(溝そうじ)
- 14日(月) 説明看板の設置(大手道・高屋敷・赤坂口)
- 15日(火) 除草(中心部)
- 16日(水) 除草(中心部・大手道)
- 16日(水) 遊歩道修繕(落下防止ロープ支柱)
- 19日(土) 慶應義塾横浜初等部の七尾城登山
- 31日(木) 九尺石災害復旧工事着工



除草(本丸)

## 【6月】

- 1日(金) 遊歩道修繕(落下防止ロープ支柱)
- 5日(火) 広報ななお6月号  
(保存活用計画の紹介文)
- 7日(木) 室会議(第4回)
- 7日(木) 除草(中心部)
- 14日(木) 調査(物見台)
- 15日(金) 調査(物見台)
- 18日(月) 調査(物見台)
- 21日(木) 除草(中心部)
- 28日(木) 除草(大手道)
- 30日(土) NHK総合TV「最強の城スペシャル」  
にて七尾城跡が紹介される



NHK「最強の城スペシャル」撮影風景

## 【7月】

- 2日(月) 説明看板の設置(本丸からの眺望)
- 4日(水) 除草(中心部)
- 5日(木) 説明看板の設置(本丸駐車場)
- 7日(土) 県道177号城山線崩落
- 9日(月) 現地確認(旧道～中心部のき損箇所把握)
- 10日(火) 崩落現場確認(県道城山線)
- 11日(水) 遊歩道修繕(安寧寺横ベンチ修繕)
- 11日(水) 樹木伐採(本丸駐車場)
- 18日(水) 誘導看板の設置(本丸駐車場)
- 23日(月) 遊歩道整備(寺屋敷入口に橋を設置)
- 27日(金) 除草(中心部)
- 31日(火) 誘導看板の修繕(寺屋敷入口)
- 31日(火) H29.12.10 フォーラム実施報告書 発行



現地確認(旧道のき損箇所把握)



史跡七尾城跡整備基本計画策定委員会 現地視察

## 【8月】

- 3日(金) 除草(中心部)
- 7日(火) 除草(中心部)
- 9日(木) 第1回史跡七尾城跡整備基本計画策定委員会
- 14日(火) 説明看板の設置(九尺石)
- 24日(金) 除草(物見台)
- 27日(月) 除草(物見台)
- 31日(金) 誘導看板の修繕(寺屋敷入口)

## 【9月】

- 3日(月) 現地確認(中心部のき損箇所把握)
- 3日(月) き損箇所の応急処置(西の丸)
- 3日(月) 除草作業(物見台)
- 5日(水) 文化庁調査官の現地視察
- 10日(月) 県道177号城山線崩落により通行止めとなる
- 11日(火) 現地確認(中心部き損箇所把握)
- 11日(火) 除草(大手道)
- 12日(水) 崩落現場確認(県道城山線)
- 12日(水) 応急処置(調度丸き損箇所)
- 13日(木) 調査(能越道高架下の計測)
- 14日(金) 樹木伐採(旧道)
- 14日(金) 除草(中心部)
- 16日(日) 第77回七尾城まつり
- 18日(火) 調査(調度丸北側斜面崩落箇所の計測)
- 22日(土) 現地案内・解説(中心部・松波公民館)



県道城山線 崩落現場確認



文化庁調査官の現地視察



誘導看板の設置（迂回路）

## 【10月】

- 4日（木）誘導看板の設置（迂回路）
- 9日（火）案内看板の設置（注意喚起）
- 9日（火）除草（中心部）
- 10日（水）除草（中心部）
- 15日（月）除草（中心部）
- 16日（火）除草（中心部）
- 18日（木）除草（中心部）
- 22日（月）誘導看板の設置（迂回路）
- 23日（火）誘導看板の設置（迂回路）
- 23日（火）文化庁調査官の現地視察
- 25日（木）除草（中心部）
- 29日（月）誘導看板の設置（迂回路）
- 29日（月）除草（中心部）



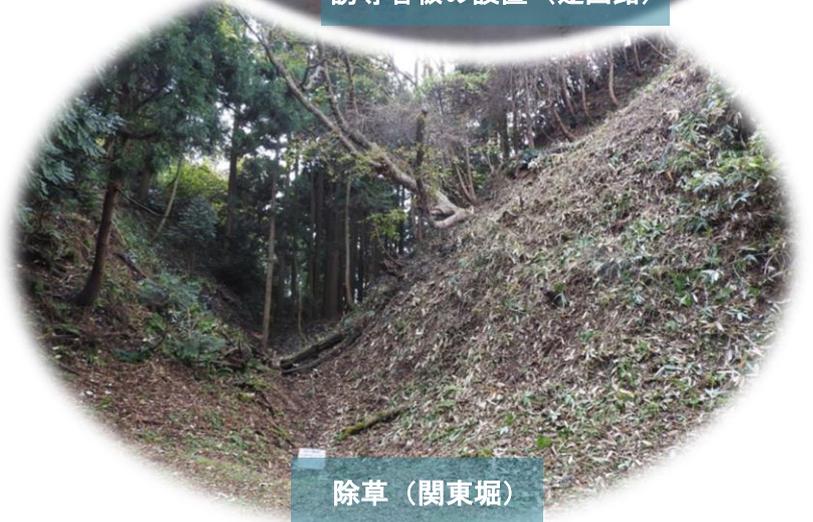
文化庁調査官の現地視察

## 【11月】

- 2日（金）誘導看板の設置（迂回路）
- 5日（月）除草（中心部）
- 8日（木）文化庁調査官の現地視察
- 12日（月）除草（中心部）
- 13日（火）誘導看板の設置（迂回路）
- 13日（火）除草（中心部）
- 16日（金）誘導看板の設置（迂回路）
- 16日（金）国文化審議会答申  
（七尾城跡追加指定等）
- 19日（月）誘導看板の設置（迂回路）
- 20日（火）誘導看板の設置（迂回路）
- 20日（火）除草（中心部）
- 27日（火）除草（中心部）
- 29日（木）除草（中心部）



誘導看板の設置（迂回路）



除草（関東堀）

